

2014年度 群馬県全日本少年サッカー大会 【競技上の注意】

《一般注意事項》

1. ユニフォームの決定（ショーツ、ストッキングを含む）

- ①両チームの責任者は、試合開始60分前、正副2着のユニフォーム一式（ゴールキーパーも含む）を本部に持参し、両チーム立会いのもと主審が、両チームの各2組のユニフォームのうちから、シャツ、ショーツ及びストッキングのそれぞれについて、判別しやすい組合せを決定する。
- ②ユニフォームの色の類似により変更を主審が認めた場合、主審と両チームで協議する。
- ③協議により決定しない場合は、主審のトスで決定する。
- ④ゴールキーパーの負傷退場等により、緊急避難的にフィールドプレーヤーがゴールキーパーに代わる場合については、その競技者の番号等の表示を義務付けるものではない。
- ⑤背番号は整数の1から99を使用し、0は認められない。
- ⑥ビブスによる対応は認められない。

2. キックオフ前の用具の点検

キックオフ5分前に競技者は、競技フィールド前に集合して審判員より用具の点検を受ける。靴や競技者の装身具（ヘアピン・ネックレス・指輪・イヤリング・ピアス・ミサンガ等）その他が競技者自身あるいは他の競技者に、危険を及ぼすと主審が判断した場合はその危険なものを取り除かなければ、その競技者は試合に参加することは認められない。

3. 競技者の交代

- ①登録された選手の自由な交替とする。
- ②控え競技者は交代カードを使用して随時交代出場できる。
- ③交代によって退く競技者は、主審の承認を得た後、近くの境界線からフィールドの外に出る。交代要員は、退く競技者がフィールドの外に出た後、試合の停止中に主審の承認を得てハーフウェイラインのところからフィールドに入る。

4. ベンチ

ベンチに入ることのできるのは、競技会規定に定められた人数（交代要員17名以内とチーム役員3名以内の20名以内）で、しかも試合開始前に氏名の届けられた交代要員・役員に限られる。

5. コーチ

- ①テクニカルエリアの使用にあたっては、チームの役員1人が、試合中競技者にコーチすることができる。
- ②テクニカルエリアの使用は、戦術的指示を競技者にコーチすることのみ許される。

6. 交代要員のウォーミングアップ

交代要員のウォーミングアップは、競技場ごとに指定された場所にてフィールド上の競技者と異なる色の服装で、原則としてボールを使用しないで行う。

7. ペナルティーマークからのキック

- ①ペナルティーマークからのキックにより次回への進出を決定する場合は、競技者は監督の指示を受けるため、あるいは飲水するために1分間程度、自チームのベンチ前に行くことができるがフィールドの外へ出ることは認められない。
- ②ペナルティー方式時にGKの着用する服装は、次の二つの要件を満たすものとなる。
 - ・ 他の競技者、主審および副審と区別がつく色のもの
 - ・ その競技者の番号が明確に表示されるもの

8. 競技中負傷した競技者の処置

- ①原則として負傷者の治療はフィールド内では行わない。
- ②競技者が負傷して主審が競技を停止した場合、主審の承認を得てからチームの医療担当者1名のみがフィールドに入ることができる。その医療担当者は、負傷の程度を判断することと、負傷者のフィールドからの搬出を手配することだけにフィールドに入るのであり、フィールド内での治療は認められない。
- ③出血を伴った負傷で、主審から治療を指示された競技者は、治療後、試合が再開された後に、アウトオブプレーの時、止血処置が完全に行われていることを主審が判断した上で競技への復帰が許可される。

9. アディショナルタイム表示

前半・後半の（ランニングタイムでの）終了時に、第4の審判によりアディショナルタイムが表示される。

10. その他

- ①飲み水は、タッチラインから1 m以上離れた場所および自陣ゴール後方に置くことができる。競技者の試合中の飲水は、アウトオブプレー中にタッチライン上とゴールライン上においてのみ認められる。
- ②飲水タイムを実施する場合がある。飲水タイムは、アディショナルタイムとして計上する。
- ③サーマルアンダーショーツを着用する場合は、主な色がショーツと同色とする。
- ④本大会のローカルルールとして、ユニホームの下にアンダーシャツを着用する場合は、主な色がユニホームの主な色と同色とする。但し、対戦相手と判別が困難な場合もあるので、着用に関して最終的には審判団の判断になることをご理解いただきたい。

《プレーに関する審判上の注意事項》

1. 笛が鳴るまでプレーを続けること

主審は積極的にアドバンテージを採用しようとしている。また、オフサイド等の判断は最終的に主審が行うものであり、副審の旗が上がったからといってプレーを止めないこと。

2. オフサイドポジションにいる競技者

オフサイドポジションにいること自体は違反ではない。

ボールが味方競技者によって触れられるかプレーされた瞬間にオフサイドポジションにいる競技者は、次のいずれかによって積極的にプレーにかかわっていると主審が判断した場合にのみ罰せられる。

- ・プレーに干渉する。または、相手競技者に干渉する。または、その位置にいることによって利益を得る。

3. スローイン

スローインはボールの出た地点から行うこと。タッチラインの1 m以上外側から行うスローインは許されない。競技者がスローインをする競技者の直前に立ってこれを妨害することは許されない。2メートル以上離れる。

4. ゴールキーパーのボール保持

- ①ゴールキーパーがボールを手から離すまでにボールを手でコントロールしている間に6秒を超えた場合、間接フリーキックで罰せられる。
- ②規則の精神は早くボールを離すということであるから、ゴールキーパーは手で保持した場合と同様に足で処理している場合でも、早くボールを離すよう心がけなければならない。

5. 警告・退場

- ①今大会において退場を命じられた競技者は、最低次の1試合に出場できず、それ以降の処置については規律委員会で決定する。
- ②今大会において警告を2回受けた競技者は、次の1試合の出場資格を失う。
- ③ペナルティマークからのキックの進行中における警告は、競技中の警告と同じ処置である。すなわち、2回目の警告を受けた場合は退場となり、その警告は大会中の警告にカウントされる。
- ④相手チームのフリーキックを故意に遅らせる競技者には、警告が与えられ、これを繰り返せば退場が命じられる。
- ⑤7mのところにつくられた守備の壁から、ボールが蹴られる前に飛び出してくる競技者は警告され、これを繰り返せば退場が命じられる。
- ⑥著しく不正なプレーを犯した、あるいは乱暴な行為を犯したと主審が判断した競技者は、退場が命じられる。
- ⑦後方からだけでなく側方や前方からのタックルは、相手の足に触れずにボールへ正しくいった極めて例外的なものを除いては反則であり、さらにある程度以上の強さや悪さをともなっているタックルは、その程度に応じて警告・退場で厳しく罰せられる。
- ⑧主審の判定に、言葉または行動によって異議を示す競技者は、警告を与えられる。
- ⑨攻撃的な、侮辱的な、あるいは下品な発言や身振りをする競技者は、退場が命じられる。
- ⑩ベンチにいる役員が、判定に対し異議を唱えたり、選手に対して罵声などネガティブなコーチングを行い、主審から一度注意を受けた後、再度何れかの役員が同様な行為をした場合は、主審の判断によりその役員を退席処分とする。

6. プレーの開始および再開

キックオフから直接相手のゴールに入った場合は、相手にゴールキックが与えられる。

7. PK方式

- ①PK方式において、両チーム3人ずつの競技者がキックを行ったのち、両チームの得点と同じ場合は、同数のキックで一方のチームが他方より多く得点するまで交互に順序を変えることなくキックは続けられる。
- ②試合が終了し、ペナルティマークからのキックを行う前に、一方のチームの競技者が相手チームより多い場合、競技者のより多いチームは相手競技者数と等しくなるように競技者数を減らさなければならない。チームの主将は、除外するそれぞれの競技者の氏名と、背番号を主審に通知しなければならない。これによって、除外された競技者はペナルティマークからのキックに参加することはできない。